

日時：令和3年9月9日（木） 13:30～15:00

場所：奈良県文化会館 多目的室

- 1 開会
- 2 挨拶 田中農業水産振興課長より挨拶
- 3 委員紹介（部会長以下五十音順）
横山部会長、大井委員、佐藤委員、中川委員、揉井委員、八代田委員、吉岡委員
- 4 定数報告
委員8名中7名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は成立
- 5 配布資料の確認
- 6 議長選出
奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第3項の規定により横山部会長を選出
- 7 会議の公開
奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取扱いにより会議の公開を決定
傍聴者1名
- 8 議事録署名委員の指名
中川委員並びに吉岡委員を指名
- 9 議事の進行
知事からの諮問案件は、第1号議案の1件。報告案件は9件

<審議案件>

- ・第1号議案 白川又鳥獣保護区特別保護地区の指定について

■説明

（事務局）資料1、2、3により説明

■質問、回答、意見

（大井委員）

資料3の2ページで、シラビソ林帯で大規模な立ち枯れがあり、また、ブナ・ミズナラ林帯でも立ち枯れのあるなか、シラビソ林帯については、原因は特定されていないとのことだが、ブナ・ミズナラ林帯についても、原因はわからないか。

（事務局）

直接的な原因ははっきりしていないが、酸性雨の影響や鹿の下層植生への加害などが影響しているのではないかと考えられる。

（大井先生）

立ち枯れが目立つようになったのは、いつ頃からか。

（事務局）

前回10年前の調査では、現状ほどではなかったと聞いている。

（八代田委員）

前回の調査と比較して鳥類が減っているとのことだが、減っている鳥類の種類をお示しいただきたい。また、その原因についてわかることがあればお願いします。

（事務局）

カヤクグリについては、前回見られたが今回見られなかったと聞いている。シカによる下層植生への加害により、例えば繁殖できないといったことが原因ではないかと考えられる。

（八代田委員）

今後シカ対策など、鳥類の減少について対策を行うことを考えているか。

（事務局）

捕獲を強化することを考えている。シカについて、上北山村全体で200～300頭の捕獲を行っており、うち白川又地区では40頭くらいの捕獲を行っているが、さらに積極的に取り組んでいただくこととしている。

（揉井委員）

鳥類のラインセンサスによる調査について、5月26日に行い天候は確かに晴れであったものの、風が強くて気温が低かったと調査した者から聞いている。10年前20年前の調査と比較して、

鳥類が少なかったのは、その影響もあるのではないかと考えられる。

それから、コマドリについては、日本野鳥の会奈良支部として 2011 年に大峰山系で調査事業を実施した。その時には、ほとんどコマドリは見られなかったが、今回の調査では増えていたと聞いている。ただし、防鹿柵の中でさえずっていることが多かったと聞いているので、シカの影響はかなりあると考えられる。

(横山部会長)

今回の調査は夏鳥と留鳥のみの把握しかできないと思うが、10 年前のデータをもってきて、これがあるだろうと判断しているのか、それとも別のデータがあるのか。

(事務局)

調査については、日本野鳥の会奈良支部へ委託によりお願いしている。現地調査は確かに 5 月だけだが、日本野鳥の会奈良支部として活動されている中で、近年の情報を加えていただいて、夏鳥以外にもこの程度はあるであろうとして報告をいただいている。

(横山部会長)

できるだけ具体的データを県で蓄積することをお願いしたい。

(横山部会長)

揉井委員に質問ですが、クマタカは近年確認されているのでしょうか。

(揉井委員)

この地域は、クマタカの飛行が確認され、繁殖もしている。

(横山部会長)

シラビソ林帯、ブナ・ミズナラ林帯の状況について、報告書では今後いかなる影響が出るか危惧されるで終わっているが、非常に貴重な自然が残っていると考えられるので、積極的な保護政策が必要な地域ではないのかと思う。意見として述べさせていただく。

(横山部会長)

第 1 号議案は原案どおり承認でよろしいか。

(各委員)

異議なし

(横山部会長)

第 1 号議案は原案どおり承認することに決しました。

< 報告案件 >

- ・ (1) 第 13 次鳥獣保護管理事業計画書の策定について

■ 説明

(事務局) 資料 4 により説明

■ 質問、回答、意見

質問、意見なし

- ・ (2) 奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画 (第 7 次) の策定について

■ 説明

(事務局) 資料 5 により説明

■ 質問、回答、意見

(横山部会長)

生育頭数を推定するということだが、どんな方法で推定されるのか。また、従来も同じ方法か。

(事務局)

シカの目撃効率、糞塊密度調査と捕獲数に基づいたベイズモデルによる推定を行うこととしている。従来も同じ方法。

(横山部会長)

鳥獣保護区 5 頭/km² と鳥獣保護区以外 2 頭/km² を目指して、生息数 6,500 頭の目標を次期計画でも掲げるようだが、達成が難しいのではないか。

(八代田委員)

目標に対する評価が大切ではないか。

(事務局)

今後、生息頭数を推定することとしており、それを踏まえて検討してまいりたい。

(横山部会長)

次期計画の途中で国の半減目標の目標年が来るので、次期計画の最終目標は県独自で立てる必要がある。ご検討をお願いします。

(大井委員)

6,500頭の目標はこれだけで結構だが、長期的な目標と中期的な目標は分けてきちんと立てた方がいい。次期計画の計画期間中に達成すべき目標を立てる必要がある。

- ・(3) 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画(第5次)の策定について

■説明

(事務局)資料6により説明

■質問、回答、意見

(八代田委員)

豚熱の個体群への影響について、どう考えているか。

(事務局)

豚熱の影響については、データが一年程度と少なく、はっきりしたことは現段階ではわからない。生息頭数の推定について、最新のデータを活用した上で、どのような推定ができるのか、委託業者と相談しているところで、今後検討してまいりたい。

(中川委員)

発熱により水を求めるためか、自然死している個体については水辺で死んでいることが多い。また、生息個体は10貫ぐらいの大きさの若いメスのイノシシが多く、大きな個体を最近見なくなった。豚熱については、イノシシの生息に大きな影響が出ていると思う。

- ・(司会)話題が豚熱となったため、(5)を先に説明いたします。

- ・(5) 奈良県内における野生イノシシの豚熱の状況について

■説明

(事務局)資料8により説明

■質問、回答、意見

(吉岡委員)

有害捕獲で5,000頭、狩猟で2,000頭、合計で7,000頭を年間捕獲していると聞いているが、今年度は豚熱の影響があって年間6,100頭の捕獲目標を達成することは難しいのではないかなと思うがどうか。

(中川委員)

6100頭の捕獲は無理だと考えている。場合によっては半分以下となることも想定される。10貫の大きさは、人間で言うと青年なので、生きている個体は、若いメスが多いということ。オスもまったく捕れないわけではないが、なぜか痩せている。

(吉岡委員)

野生における経口ワクチン接種による抗体の保有率や感染の状況など、豚熱の影響がどのように出ているのかを分析して、捕獲頭数の目標を決める必要がある。十分な検討をお願いしたい。

(中川委員)

猟友会としては、経口ワクチンの接種はありがたいと考えている。家畜を守るということが目的だが、野生のイノシシも守っている。

(佐藤委員)

ワクチンベルトの形成のために経口ワクチンを散布したそうだが、豚熱の発生している生駒市と曾爾村が、散布の対象から外れている理由は何か。特に生駒市は大阪との県境に位置していることから他府県へ広がる恐れもあると思うがどうか。

(事務局)

畜産課の所掌となるが、生駒市は、発生が最近でワクチンベルトの計画時には対象ではなかったこと、また、大きな養豚農家が無いことから、経口ワクチンの散布地からは外れたと聞いている。

(佐藤委員)

発生が最近と言うことは承知をしているが、大阪との県境ということもあり、県外への感染拡大の恐れもあるので、今後の対応について検討をお願いしたい。

(横山部会長)

豚熱は、兵庫県でも発生している。弱毒性であることから、動き回ってから衰弱して死ぬこととなり、蔓延することとなっている。さらに広がる恐れがあることから、捕獲個体のPCR検査、抗体検査をすすめていただき、ウイルスの有無、抗体の有無について、モニタリングを強化して欲しい。労力が大変かかることは重々承知しているが、死亡イノシシだけのモニタリングでは、対応が後手にまわる可能性がある。各都道府県でワクチンベルトの取り組みを行っているが、すでに突破されているのが現状。大変手間のかかることで恐縮だが、よろしくお願ひしたい。

・（４）奈良県ツキノワグマ保護管理計画（第５次）の策定について

■説明

（事務局）資料７により説明

■質問、回答、意見

質問、意見なし

・（６）奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（第２次）の策定について

■説明

（事務局）資料９により説明

■質問、回答、意見

（大井委員）

県のニホンジカ、ツキノワグマの計画、奈良市のニホンジカの計画において、国の基本的な指針に追加記述されているとおり、具体的に評価可能な数値目標の設定を目指していただきたい。

（横山部会長）

140～160頭の捕獲ということだが、その被害軽減の効果についてはどうか。

（奈良公園室）

令和元年度の農家アンケートでは、被害が減ったと回答をいただいている。ただ、完全に被害が低減したかといえそうではないので、引き続き検討は必要。なお、奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画については、奈良の鹿保護管理計画検討委員会において、調査方法の検討や結果の分析を行うとともに、計画のあり方について、別途検討を行っている。